

特定健診ではこんなことがわかります

区分	検査項目	説明
問診	服薬・喫煙・既往歴などについて確認します。	
身体測定	・身長	身長・体重からBMI(肥満度)を確認します。 BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m) BMI=22が最も病気になりにくいといわれています。
	・体重	
	・BMI	
	・腹囲	内臓脂肪の蓄積の状態を確認します。
血圧測定	・血圧	血圧が高い状態が続くと、動脈硬化を起こしやすくなります。血管が破れたり詰まったりして、心筋梗塞や脳卒中を引き起こすこともあります。
血液検査	・LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも呼ばれ、この量が多いと血管内に付着・蓄積し、動脈硬化を進行させます。
	・HDLコレステロール	善玉コレステロールとも呼ばれ、血管の内側に付着したコレステロールをはがして排せつ、処理する働きがあり、動脈硬化を予防します。
	・中性脂肪	中性脂肪が多くなると、動脈硬化の発症、進行を促進します。
	・血糖	数値が高いほど糖尿病の疑いが高くなります。
	・HbA1c	
	・AST(GOT)	この数値が高いと、肝臓・心臓や筋肉などの臓器の異常が疑われます。
	・ALT(GPT)	この数値が高いと、肝臓障害が疑われます。特に内臓脂肪型肥満の人は脂肪肝に要注意です。
	・γ-GT(γ-GTP)	肝臓障害の発見の手がかりとなります。
	・クレアチニン	腎機能が低下すると血液中に増加します。
	・eGFR	腎臓の働きを評価する指標となります。
・尿酸値	数値が高いほど痛風発症の危険性が高くなります。	
尿検査	・尿糖	尿の成分を調べます。尿糖では糖尿病のリスクを、尿たんぱくでは腎臓の状態などを確認します。
	・尿たんぱく	
メタボリックシンドローム判定		腹囲・血糖・脂質・血圧の数値から判定します。基準該当だと生活習慣病の発症リスクが高い状態です。

※一定の基準の下で医師が必要と認めた場合は、上記基本項目に加え、次の検査が行われます。

- 貧血検査: 赤血球、ヘモグロビン、ヘマトクリット、白血球、血小板
- 心電図検査: 動脈硬化の進行を検査
- 眼底検査: 眼科疾患、糖尿病網膜症、脳梗塞の予知